

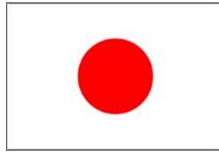


防災アクション投稿キャンペーン実施中！【バングラデシュ】

ハッシュタグ #durjogeamraa（「災害には私たちが立ち向かう!」の意）で、
あなたの防災アクションを世界に発信しませんか？

本号の記事

- **日本**
 - ▼全国：2021年度「第8回アクサ・ユネスコ協会 減災教育フォーラム」への講師派遣
 - ▼鳥羽：総合学習の視察と校内研修会への講師派遣
 - ▼長野：「長沼の復興まちづくりりんご」のキーワードで語り合うまちの未来像
 - **フィリピン**
 - ▼台風22号 ライ（現地名オデット）への緊急支援への御礼と復旧・復興支援事業の開始
 - ▼フィリピン教育省主催の教員トレーニングへの講師派遣
 - **ミャンマー**
 - ▼学校兼シェルター完工のお知らせと子どもたちの教育継続に向けたご協力をお願い
 - ▼事業専門家による「よりよい建物をつくるためには」トークセッションの実施
 - **バングラデシュ**
 - ▼児童・生徒向けの防災啓発ビデオが完成！
-



日本

▼本部 講師派遣、未災地支援

▼長野 令和元年台風15号・19号で被災した長野市長沼地区の復興まちづくりを支援します。

ジャパンプラットフォーム 休眠預金等活用事業、国内事業（台風15号・19号被災地支援プログラム）

全国：2021年度「第8回 アクサ ユネスコ協会 減災教育フォーラム」への講師派遣

2月26日、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟主催、アクサ生命保険株式会社協力による、2021年度「第8回 [アクサ ユネスコ協会 減災教育フォーラム](#)—減災教育を地域に広げ未来につなげるために—」がオンラインで開催されました。本フォーラムは、昨年9月に開催された「第8回アクサユネスコ減災教育プログラム」の参加校（全国から27校）を主な対象者とし、今後の減災教育の推進と持続発展に向けてさらなる学びと交流を深めることを目的に実施されました。

本フォーラムでは、SEEDS Asia理事（東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員、ESD円卓会議議長）の及川幸彦氏が全体のプログラムコーディネーターを務めている他、SEEDS Asiaアドバイザーで新潟大学の上田和孝氏がパネルディスカッションでコメントーターを務めました。また、冒頭には事務局長の大津山光子が「災害に負けないまちづくり・人づくり—アジアと日本の現場から」と題する基調講演の機会を頂きました。誰もが災害に向き合う時代の中で、災害に負けない人づくりとまちづくりに取り組むことが、社会の持続性確保の観点から欠かせないこと、そして10年後、20年後のまちの未来を見据え、こどもたちと共に取り組むことの重要性と効果を共有し、学校と地域の連携による社会課題の改善に向けた取り組みを国内外の事例と共に紹介致しました。

毎年、全国の小中高の先生方との素晴らしい出会いと学び合いの機会をいただく本フォーラムは、SEEDS Asiaも大変楽しみにしているイベントです。継続的な関わりをいただいている公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の皆様、そして関係者の皆様に改めて深く感謝申し上げます。

鳥羽：総合学習の視察と校内研修会への講師派遣

2月14日、鳥羽市立鳥羽小学校の防災をテーマとする総合学習（4年生）の視察、並びに校内の特別教員研修会にお招きいただき、SEEDS Asiaのテクニカルアドバイザーで滋賀大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻特任教授、元京都市高倉小学校校長の岸田蘭子氏と事務局長大津山光子が講師を務めました。

三重県の鳥羽市立鳥羽小学校との連携は、SEEDS Asia理事の及川幸彦氏（東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター主幹研究員、ESD円卓会議議長）が例年、講師として鳥羽市教育委員会に招聘されてきたことが基盤となっています。さらに、2018年度のアクサユネスコ協会 減災教育フォーラムでの講演をきっかけとして、Education for Sustainable Development（ESD：持続可能な開発のための教育）アプローチによる防災/減災教育の推進・実施に向けた技術協力要請を頂いたことを皮切りに、要請に応じた講師派遣による「未災地」への支援が都度行われてきました。

2020年度からは、海洋教育をベースに芽生えていたESDを軸とする防災/減災プログラムを、単発的・属人的ではなく、全学年・科目横断的な学校全体のものとするを目的に、カリキュラムマネジメントを学校の基盤強化策として導入することを推進してきました。そこで、カリキュラムマネジメント分野においても知見・実践が豊富で、インドやミャンマー事業でも協力をい

ただいってきた岸田蘭子氏にテクニカルアドバイザーとして加わっていただき、今回は三度目となる研修会にお招きいただいた次第です。

今回の研修では、岸田蘭子氏より「カリキュラムマネジメントのステップアップのために」と題し、経験学習サイクルモデルから問いを核とした学びの過程についての共有が図られ、ワークショップが行われました。また、事務局長の大津山光子からは「まちの災害リスク削減に向けてー『わかる』から『やってみよ!』へのバージョンアップー」をタイトルとして、縮退化する社会の中での危機への対応として、次世代を巻き込みながらまちの課題に取り組むことの効果や事例を紹介しました。

お招きいただいた鳥羽小学校の皆様、関係者の皆様には貴重な機会をいただきましたことを、ここに改めて感謝申し上げます。



長野：令和元年東日本台風被災地支援 「長沼の復興まちづくりりんご」のキーワードでまちの未来像を語り合い

SEEDS Asiaは、2021年5月より長沼地区自治協議会と復興対策企画委員会・コミュニティ検討会の方々と共に伴走する形で支援してきました。その活動のベースとなっているのは、最初に共同で取り組んだ住民の意見集約ツール「復興まちづくりりんご」（りんご型をした3色のカード）によって集まった408項目に及ぶ住民の方々の声です。カードの一つ一つには、育まれてきたまちの魅力と同時に、被災後に顕著になった課題、そして希望が文字として表現されており、老若男女一人一人の声を収集・可視化する作業に取り組んでいました。

前号では、人の魅力や得意技を活かしつつ、「集まりたい」という沢山の声に応えていくための、「場づくり」と「担い手」ネットワーク形成を目的とした、まちの人材バンク制度「りんごっちゃん」の創設について紹介しました。今回は、コミュニティ検討会の方々と共に改めて「まちづくりりんご」を振り返り、キーワードを拾いながらまちについて語り合う意見交換セッションを1月13日に実施しましたのでご紹介します。

「長沼の復興まちづくりりんご」のりんご型カードは3色に分かれており、ピンク色は魅力、緑色は抱えている課題、黄色は希望を示すものとして住民の方々に記載いただきました。収集の際には記載内容をすべて文字入力し、出現頻度を文字の大きさを示す「ワードクラウド（写真上）」として可視化していました。今回はこのワードクラウドを参照しながら、メンバーの方々の想いを合わせて語り合う時間を持ちました。尚、本来ならば、長沼住民交流ハウスに掲示されている「長沼の復興まちづくりりんごの木」を見ながら行いたかったこの意見交換セッションは、新型コロナウイルスの影響を受けオンラインとなりました。

セッションでは、長沼城の存在や小林一茶にゆかりある土地であること等、まちの歴史的資源を最大の魅力とする声はもちろん、子育て世代からは、「つながり・やさしさ」に関連し、近所の温かい「見守る目がある」ことについて発言がありました。「世代を超えた近所とのあたたかいつながりがあったからこそ、避難所でも安心して過ごすことができた」こと、そして「被災後

の厳しい環境下でありながらも、子どもたちが精神的に安心して過ごせたことが、代えがたいまちの価値だった」と語られました。そして、この経験が長沼に住まう、という居住地選択の決定要素となっていたことも語られ、地域の紐帯がまちの存続を左右したと言っても過言ではないことを参加者一同認識するに至りました。他にも、課題として集まる場や遊べる場がないということについて、被災したまちのイメージをポジティブなものに変化させ、まちの価値をブランディングしていくためにも、豊かな自然を生かし「あそべる」「たのしむ」「にぎわい」といった、若者にも魅力を感じてもらえる創造的ワードについても意見を交わしました。課題の共有と共に「こんな風になったらいいな」という未来像をみんなで語り合うことで、まちづくりんごカードに託されたまちの方々の声が、より鮮明なものとなりました。

こうした文字として表現されている魅力・課題・希望を、次は空間的に地図イラストにして「RE-DISCOVERながぬまっぷ」として表現していこう！ということになりました。本資料は、コミュニティ検討会の成果資料として次年度に新設されるまちづくり委員会への引継ぎ資料として提出することを計画しています。



フィリピン

▼台風22号 ライ（現地名オデット）による被災児童・生徒の教育機会の確保に向けた支援を開始します。

被災地への緊急支援、復旧・復興支援



台風22号 ライ（オデット）による被災校への緊急支援へのご協力に感謝申し上げます！

昨年12月に発生した台風22号・オデットへの緊急支援にご関心をお寄せいただき有難うございました。また、年末年始にも拘らず温かいご支援をいただいた方々に、この場をお借りして改めて深く感謝申し上げます。

皆様よりお預かり致しましたご支援は、電気・通信網が途絶えている被災地域のセブ州ラプラブ市、同州ダナオ市の教育事務所で活用する発電機代購入費・運搬費として活用させていただきました（合計 393,160円）。ご支援を通じた本発電機の供与により、現地では情報収集や報告業務が可能になった他、教育事務所内の印刷機を稼働させることができるようになりました。

情報が命を左右し得る初動対応期において、皆様のご支援は非常に大きな意味を持つものとなりました。年末年始の時期にも拘わらず、遠い地に想いを馳せ、温かいお気持ちで支えてくださったことを、ここに改めて深く感謝申し上げます。

セブ州における被災校の復旧・復興支援事業を開始しました

新型コロナの影響により、2年近く学校閉鎖が続いたフィリピンにおいて今回の台風被害は、学校再開・教育の継続を妨げるという意味で、長期的な子どもへの影響が甚大です。未だに被害の全容も正確に把握できない状況が続いており、今後の道筋も立っていないケースが多々見られます。

このような状況を踏まえ、SEEDS Asiaはジャパン・プラットフォーム（JPF）加盟団体として助成を受け、「中部ビサヤ地方セブ州における教育継続支援」を開始し、学校の復旧・復興を支援して参ります。

具体的には、対象地区の教育省地区事務所が被災校の状況を把握し、授業再開に向けた目途が立てられるようになることを目的として、①通信ネットワーク整備や訪問調査により、学校の課題・ニーズを把握した上で地方事務所や国に伝達・記録するための電力設備と通信機器を提供し、②事務所管轄下の被災校への貸出物として復旧に必要な機材を配備できる態勢を整備することによって、今後の被災児童生徒への支援に向けた情報と、被災した学校建物の被災状況報告書をまとめ、授業再開に向けた復旧計画につなげます。

今後もフィリピンにおける学校防災と復興支援に注力していく所存です。どうぞ、引き続きお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

フィリピン教育省主催の教員トレーニングへの講師派遣

フィリピン教育省からご招待いただき、海外・国内事業統括の有馬沙紀が教員向けの防災・気候変動適応教育に関するトレーニングの講師を務めました。このトレーニングはYSEALI (Young Southeast Asian Leaders Initiative) Climate Changemakersという取り組みで、フィリピン全土の若手教員に対し、色々な講師によるレクチャーが提供されました。SEEDS Asiaとして、2014年～2017年に実施したJICA草の根技術協力事業の紹介を通じ、防災・減災の要素をどのように正規科目に融合したのかを紹介する機会となりました。レクチャーは事前録画したものであったので受講者とは対面できませんでしたが、中部ビサヤ地方で先進的に実践された防災・気候変動適応教育のモデルが全国に徐々に広がっていくことを嬉しく思います。



ミャンマー

▼教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、
水害常襲地でのハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進してきました。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業

▼複合的リスクの中にある児童の教育機会の確保に向けた支援を開始します。

被災地への緊急支援



学校兼シェルター 竣工のご報告

クーデターが発生した昨年の2月1日から一年が過ぎました。しかし、今この瞬間にもミャンマーで、罪のない人々の命が奪われ、暮らし・まちが破壊される事態が発生し続けています。

2020年3月から開始した学校兼シェルター2校目の建設は、形を変えてとめどなくやってくる困難に向き合う日々が続きましたが、一年の遅延を経て2022年1月末にやっと完工となりました。コロナ禍での国内外の移動制限に伴うリモートによる施工管理、2020年7月には例年よりも早いモンスーン期の浸水の開始、さらにはヒンタダ地区内で破堤するという事態が発生したことで、工期に大きな影響を与えました。2021年にはクーデターの発生とその後の政情不安、新型コロナウイルスの蔓延により、「ヒト・モノ・カネ」の移動が大きなリスクを伴うものとなりました。現地の人々の暮らしを守るはずの支援が、攻撃の対象となるリスクを孕むという現実を前に、事業の中断も考えざるを得ない状況に何度も陥りました。

しかし、どのような政治状況であれ、自然の摂理と気候変動の影響は避けることができません。激甚化・頻発化する自然の脅威は、脆弱層により大きな打撃をもたらし、住民の安全確保はより重要かつ喫緊の課題となっています。そして教育は、こうした危機を生き抜くために不可欠なものであり、国の未来をつくるものです。だからこそ、私たちは事業を中断してはならないとし、完工を目指し続けることとしました。この間、村の方々には、現場での移動や物品の管理、スタッフやワーカーの移動や滞在に関わり、多大なる協力をいただきました。

現地の政情を鑑み、引き渡し式は残念ながらオンラインでの実施となりました。しかし、村の方々や子どもたちが「日本が作ってくれた学校だ」と喜ぶ姿、そして「防災研修によって人災を含めた様々な危機にも対応できるようになった」と先生や地域の方々が話す言葉には、スクリーンからも伝わってくる深い感謝の想いが込められていました。

クーデター発生後から完工迄の一年間、現地スタッフや村の安全を優先させていただき、ニュースレターやホームページ、SNSでの活動状況について一切報告できない状況が続きました。このような事態をご理解いただき、温かく見守ってくださった方々、そしてミャンマーの方々へ心を寄せ、ご心配と応援を頂いている方々に、この場をお借りして改めて深く御礼を申し上げます。以上をもちまして、外務省日本NGO連携無償資金協力事業は終了となります。ご支援ご協力を頂いた皆様、誠に有難うございました。

ミャンマーの子どもたちへの教育継続支援のお願い

ミャンマーでは、コロナ禍と政情不安の中、約2年間にわたり学校が閉鎖していました。治安や経済状況の悪化が重なり、文房具や教材の不足、制服の購入も困難となっています。政治的状況から、親子ともに学校への信頼や授業への興味・関心を失うなど、子どもたちが初等教育を受

ける機会からますます疎外されています。生きていくための基礎学力はもちろん、子どもの保護、そして長期的な国づくりにおいても、このような教育機会の欠如は長期的な視点で国をより貧困へと導き、災害に脆弱な国へと貶める結果となることが懸念されています。

このような状況について、昨年11月に講演の機会を頂いた京都東ロータリークラブ並びにご出席されていた大阪東ロータリークラブの有志の方々より、ご寄付（総額95,000円）お預かり致しました。温かいご支援に心より深く感謝申し上げます。

SEEDS Asiaはミャンマーの子どもの教育継続機会を確保するためのご支援を継続して募集しております。皆様、今後もあたたかいご理解・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

「よりよい建物をつくるためには」トークセッションの開催

上記のとおり、国内では多様な問題が発生する中、人道支援のニーズはより一層高まっています。

そこで、2月28日、ミャンマーにおける施工上の課題や教訓を広く共有し、円滑な施工管理/監理へのヒントとすべく、「よりよい建物をつくるためには」と題したトークセッションを事務局長である大津山光子と建設分野の専門家である瀧野雅文氏で実施しました。

本トークセッションは、人道支援として構造物を今後も建設していく可能性が高い層として、ミャンマーで活動する日本のNGOネットワーク（JNN-M）の登録団体を対象とし、教育や保健施設など、建設案件を抱える日本のNGOに呼びかけ、14名9団体が参加しました。瀧野専門家が長年蓄積してきた施工に関わるノウハウと、途上国の共通事項とミャンマーの固有事項を含め建設にあたる課題の共有と対応、コロナ禍や政情不安といった本事業中に発生した数々の危機への対応を含めた事項が「よりよい建物をつくるためには」というハンドブックと共に共有されました。

事前のアンケートでの記載事項を含め、参加者からは多くのNGOが建設上の課題について困難を抱えていることが共有されました。2時間程度のセッションでしたが、今後もこのような機会が求められていること、そして知見を共有が現地で暮らす方々の安全につながることを強く感じる時間となりました。



バングラデシュ

学校を拠点としたコミュニティの防災力向上と全市的な意識啓発を目指します。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業



児童・生徒向けの防災啓発ビデオが完成！

火事、大雨による冠水、雷、大気汚染など、ダッカでは都市型災害のリスクが高まり、市民の生活を脅かしています。コロナウイルスの流行でも大きな打撃を受けました。リスクを軽減し災害に強いまちを作っていくためには、市民ひとりひとりの意識向上と行動が非常に重要です。今回作成したビデオは、災害と防災についての知識を身に着けると同時に、行動を起こすことを強調しています。また、ハッシュタグ#durjogeamraa（「災害には私たちが立ち向かう!」の意）とともに自分の防災行動をFacebookに投稿するキャンペーンへの参加を呼びかけています。是非ご参加をお願い致します！

尚、今回完成したビデオは、感染症、大気汚染、大雨、火事の4つをテーマとしています。4人のメインキャラクターが災害について調べ、専門家に話を聞きに出かけ、リスク軽減のための行動を実行するというシナリオで、1) 災害の特定、2) 専門家から学ぶ、3) 各自の減災行動、の3部構成になっており、SEEDS Asiaの[YouTubeページ](#)からご覧いただけます。

専門家役は、プロの役者ではなく、現役の消防隊員、大学教授、気象局職員、医師などSEEDS Asiaがこれまで関わってきた現地の専門家の皆様にご協力いただきました。ビデオはベンガル/バングラ語ですが、歌も交えた楽しい内容ですのでみなさんもぜひご覧ください！

バックナンバーを読む

アジアの防災・被災地の復興を応援しませんか

SEEDS Asiaの活動は、皆さまからのご支援によって成り立っています。寄付金は、SEEDS Asiaの活動全般へのご支援として、アジア各地での環境・防災、被災地の復興に向けた活動に活用させていただきます。

**尚、弊団体は認定NPO 法人格の交付を受けており、個人・法人からでも
ご寄付額に応じて税法上の優遇措置（税額控除対象）を受けることができます。
皆さまからのあたたかいご支援・ご協力をお願い致します。**

▼緊急支援に賛同する

銀行振り込みの他、クレジットカードによるオンライン決済、携帯電話料金との同時引き落としも可能です。ご不明な点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

銀行振込

三井住友銀行 岡本支店
口座番号：普通 0571188
口座名義：特定非営利活動法人SEEDS Asia

郵便振込

口座番号：00960-7-207240
口座名義：特定非営利活動法人 SEEDS Asia<トクヒ> シーズ アジア>

オンライン決済

下記のロゴをクリックしていただくか、こちらの日本財団による[CANPAN](#)（オンライン決済のページ）、あるいは[ソフトバンクのサイト](#)にてお願いいたします。

注：決済システム上、領収書（税額控除対象証明書）の発行が時期によってはご寄付から約1か月後となりますこと何卒ご了承ください。

尚、ソフトバンクサイトでのご寄付につきましては、自動的に匿名扱いとなっておりますこと、何卒ご了承くださいませ。



つながる募金

賛助会員・インターン・ボランティア・ を募集しています！

▼賛助会員になる

SEEDS Asiaは賛助会員(一口3,000円)を募集しております。毎月のニュースレターの他、SEEDS Asiaが主催する様々なイベントへのご案内や特典、実施国の情報等を受け取ることができます。

▼正会員になる

防災支援に関わる技術や専門性、活動を通じた支援が可能な方は正会員(一口10,000円)となっただき、緊急支援調査チームや防災啓発イベントの運営をお手伝いください。

▼イベントに参加する・講演会の実施

国内においても、防災キャンプや講演会、啓発イベントなど災害に負けない人づくりの支援を実施しています。講師派遣も行っておりますので、ご検討頂ける方は rep@seedsasia.orgまでご連絡ください。[過去のイベントはこちら](#)

▼インターンになる

国際協力や環境問題の改善、防災教育に興味があり、活動を共に支えてくださる方々を歓迎しております。是非ご連絡お願いします！

▼ボランティアをする

イベント活動や翻訳などのお手伝いをしていただけの方を募集しております。SEEDS Asiaに興味を持っていた方、環境問題や自然災害・防災教育などに興味を持たれている方は、是非ボランティア登録を行ってください。翻訳が必要になった時やイベントの実施に合わせて随時事務局からご連絡いたします。



From
the People of Japan



ニュースレターは会員の皆様その他、関係者の皆様、スタッフと交流させていただいた皆様にお送りしております。ご変更の場合は、お手数ですが本メールまでご返信ください。

認定NPO SEEDS Asia 日本658-0072 兵庫県神戸市東灘区岡本1-7-7-307 TEL 078-766-9412

[配信解除](#) [配信設定を変更](#)

今すぐ無料でEメールを送信

HubSpot